

令和7年度業務実績・決算概要 第3期中期目標期間（2年目／6年間）



令和8年3月
 公立大学法人公立鳥取環境大学

価値創造プロセス

外部環境

事業に影響を与える外部環境

- 環境問題**
- ・地球温暖化による気候変動
 - ・脱炭素化、SDGs
- 社会構造の変化**
- ・少子高齢化、18歳人口減少
 - ・地方の活力低下
 - ・多様性の尊重
- 予測困難な将来**
- ・デジタル化、変化対応力

資本

公立鳥取環境大学がもつ資本

- 財務・製造資本**
- ・資本金：8,336,830千円
 - ・キャンパス：175ha（敷地）
- 知的資本**
- ・2学部1研究科
 - ・附属研究施設
 - ・情報メディアセンター
- 人的資本**
- ・教職員数：95人
 - ・学生数：1,345人
- 社会・関係資本**
- ・鳥取県・鳥取市
- 自然資本**
- ・鳥取県の豊かな自然

事業活動

理念 「人と社会と自然との共生」 持続可能な社会の実現に貢献する人材育成

- 第3期中期計画（2024～29）**
- ・時代の先を見通し未来を切り拓く次世代リーダーづくり
 - ・成長実感を高める学生のための大学づくり
 - ・多様な人々と協働し地域とともに汗をかく地域の未来づくり

アウトプット

理念達成に向けた特色のある取組

- 教育**
- ・全学的なSDGs教育の取組、本学の資源を活かした教育活動、教育の質向上のための取組
- 研究**
- ・脱炭素化推進、競争的外部資金の獲得、地域の企業等との協働による研究推進、若手研究者の育成及び研究活性化の支援
- 地域連携**
- ・地域への知の還元、地域社会と大学の連携強化、教職員や学生の派遣等による高大連携
- 大学運営**
- ・安定的な志願者確保に向けた取組、地域に開かれた大学づくり、外部資金獲得推進、内部質保証とIRの推進（※）
- ※ IR(Institutional Research)：教育・研究・地域連携及び経営戦略立案に関する分析・意思決定支援

アウトカム

持続可能な社会の実現

- 環境問題の解決
- 社会課題の解決
- 多様性社会の実現
- グリーン人材の育成

地域の発展

- 地域を担う人材の育成
- 地域活性化への貢献
- 環境と経営の幅広い知識
- ローカル×グローバルな視点

社会的責任の遂行とSDGs達成への貢献

- SDGsの推進
- カーボンニュートラルの達成



基本理念

「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことを基本理念としています。

学部等構成

環境学部環境学科、経営学部経営学科、環境経営研究科修士課程

附属施設等

サステナビリティ研究所、地域イノベーション研究センター、情報メディアセンター、国際交流センター、学生支援センター、就職支援センター、アドミッションセンター、AI・数理・データサイエンス教育研究センター

学生数等※1

環境学部環境学科 : 657人
 経営学部経営学科 : 665人
 大学院環境経営研究科 : 23人

学生数合計
45都道府県から**1,345人**

教員数：61人、職員数：34人（うち県派遣職員2人、市派遣職員1人）

※1：令和8年4月1日現在

学生満足度※2 就職率※3 2026年度入試志願者数

94.3% **98.4%** のべ**1,100人**

※2 令和7年度学修成果振り返りアンケートにおいて、満足度がポジティブであった割合

※3 令和8年3月卒業生実績（令和8年4月1日時点）



3

主要な目標①

1 時代の先を見通し未来を切り拓く次世代リーダーづくり

SDGs・脱炭素に関する知識やスキルを社会・ビジネスなどで実践できる「グリーン人材」、またデジタル技術やデータに基づいた分析で社会やビジネスの課題解決に貢献できる「デジタル人材」の育成を通じて、未来を切り拓く人材を輩出します。

取組1 環大生×企業によるSDGs 共創プロジェクト

本学・鳥取商工会議所（工業部会）・鳥取県の3者が連携し、SDGs経営に取り組む県内企業と協働のもと、学生が教員の指導を受けながら企業の環境課題の解決に取り組むプロジェクト（4テーマ）を実施しました。



取組1：SDGs共創プロジェクト
アルミチューブ容器のリサイクルに向けた調査研究

取組2 TUES Sustainability Week の開催

TUES Sustainability Week 実行委員会（構成員：学生EMS委員会、サステナビリティ研究所）の主催により、「TUES Sustainability Week 2025」を開催しました。令和7年度は、地域の小・中学生をはじめ、一般の方に向けて「防災」・「食とエネルギー」等に関連したイベントを実施しました。

取組3 AI・数理・データサイエンスプログラムの提供

文部科学省から認定を受け、デジタル人材の育成を目指し「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の2つの教育プログラムを提供しています。令和7年度の修了者は、リテラシーレベルでは90名、応用基礎レベルでは11名でした。



取組2：TUES Sustainability Week 2025の様子
学生達によるパネルディスカッション

2 成長実感をもてる学生のための大学づくり

予測困難な時代に求められる変化対応力を身に付けさせる教育や支援に加えて、個々の学生の成長に寄り添う「学生目線」「学生本位」の教育や支援を実践し、学生が成長を実感できる魅力ある大学をつくりまします。

取組1 課題解決に実践的に取り組む教育の提供

両学部の学生を対象とした演習科目「鳥取グリーンベンチャー」では、地域や現場での体験を通じて事業に実践的に関わる「長期地域実践活動」を授業の中心に据え、学生は約3カ月間にわたってプロジェクトに取り組みました。



取組1：鳥取グリーンベンチャーの様子
企業と「ものづくり」に挑戦！プロジェクトに参加

取組2 大学魅力づくりのための取り組み

志願者確保や持続的な大学経営、また学生の成長のための「大学の魅力づくりプロジェクト」として、書籍『こちら公立鳥取環境大学です！』の発刊や学生魅力づくり委員会による「ぶらいべいと博物館」等を実施しました。



取組2：書籍『こちら公立鳥取環境大学です！』の発刊

取組3 教育改革の推進

学生の成長実感をもてるため、アクティブラーニングを推進した教育方法の点検・見直しや学修成果の可視化、カリキュラムの見直しについて、教育担当副学長を中心に教職協働で検討を進めています。令和7年度は主に「公立鳥取環境大学生の力」の作成やカリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成、授業時間の変更等の検討を進め、令和8年度からの実施に向けて準備しました。

3 多様な人々と協働し地域とともに汗をかく地域の未来づくり

大学の資源を活かして教育・研究・地域連携などの諸活動を地域で実践・深化させるとともに、地域との良好な関係を持ちながら、学内外の多様な人々と協働し、新たな価値の創出や優れた人材を輩出する、地域にとってかけがえのない大学をつくりまします。

取組1 地域人材の育成

両学部の全学生が2年次終了までに、地域の課題解決を主題とした科目（麒麟プロジェクト研究）を履修する「プロジェクト研究1～4」や、「鳥取学」「自然環境保全実習・演習A」などを地域志向科目として開講しました。



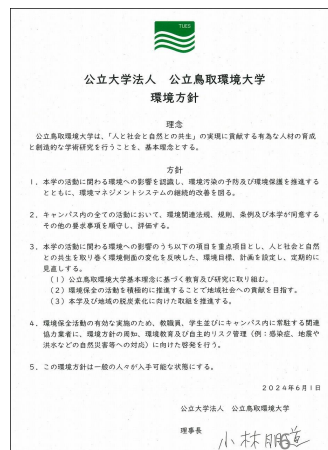
取組2：地域連携活動 学生グループ「美歌の風」

取組2 学生の地域連携活動を支援

学生の地域連携活動を推進するため、地域イベント等への参加、地域住民との交流、地域のスポーツ又は文化振興、地域情報の発信、地元製品の開発等の活動を行う団体等に対して、令和7年度は9つの学生団体へ支援を行いました。

取組3 地域や大学施設の脱炭素化に向けた取り組み

鳥取市とともに環境省脱炭素先行地域事業の採択を受け、施設・設備の省エネルギー改修を計画的に進め、Race to Zeroの目標として本学が掲げる「2030年度までに2013年度比二酸化炭素排出量60%削減」達成に向けて取り組んでいます。また、サステナビリティ研究所に設置した脱炭素WGの取組を継続し、学内の脱炭素に向けた環境方針及び環境目標を見直しました。



取組3：環境方針